いわて未来づくり機構 平成21年度第２回ラウンドテーブル

日時：平成21年９月２日（水）16:00～
サンセール盛岡１階ダイヤモンド

次　　第

１　開会

２　報告事項
①　各作業部会の進捗状況について
②　「産学官連携拠点の形成支援事業」の今後の進め方について
③　「新しい長期計画（案）」について

３　ディスカッション
　３つの報告事項を受けて「岩手のあるべき姿」の観点から機構と作業部会の方向性などについての意見交換
①　各作業部会の進捗状況について
②　「産学官連携拠点の形成支援事業」の今後の進め方について
③　「新しい長期計画（案）」について

４　その他

５　閉会

出席者名簿

氏　名	所　　属
永　野　勝　美	岩手県商工会議所連合会会長、(社)岩手経済同友会代表幹事
藤　井　克　己	岩手大学学長
達　増　拓　也	岩手県知事
玉　山　　　哲	盛岡商工会議所副会頭、(株)東山堂代表取締役社長
元　持　勝　利	(社)岩手経済同友会副代表幹事、岩手トヨペット(株)代表取締役社長

第２回ラウンドテーブル議事録メモ

日時：平成 21 年９月２日（水）16：00～18：00
場所：サンセール盛岡１階ダイヤモンド

＜報告＞
①　各作業部会の進捗状況について
②　「産学官連携拠点の形成支援事業」の今後の進め方について
　※地域プランナーとして大島修三氏の就任が報告・了承された。
③　「新しい長期計画（案）」について

＜ディスカッション＞
報告①、②について
（永野委員）
・ジェトロの会議に出たときに、宮城県でアメリカ西海岸のシェフを招待して、県の食材の売り込みを行っている取り組みが紹介された。大変有効な方法だと思うので、取り入れたらよい。
・台湾へ経済ミッションを派遣する予定だが、売りたいもの、買いたいものをしっかり調査して、すぐに商談に入れるように準備しておくこと。台湾でうまく行けば、次は上海や大連で行う。
・ブランドづくりは、紙の上で作ろうとするのではなく、具体的に施策展開することが必要だ。
・盛岡観光コンベンション協会など民間の機関とも連携して進めたらよい。
（大平座長）
・機構のネットワークを活用し、機関同士を結びつけていく役割を果たしていきたい。
（藤井委員）
・豊かさの指標を大学の研究テーマとしてはどうかという提案については、積極的に受け止めて大学側としても検討していきたい。
・人文社会系は、研究までは得意だが、具体的提言やアドバイスになかなかつながらないことが多かったので、自戒を込めてしっかり考えていきたい。
（岩渕座長）
・先生方の研究テーマとする場合、学長裁量分などで考えていただきたい。
・また、学生を使って若い視点から研究支援をしてもらうという方法も考えられる。岩手大学には Let’s びぎんプロジェクトなどの学生グループがあるので連携していけたらよい。
（高前田部長）

・県の長期計画における豊かさ、つながり、人という理念から見ても、「豊かさの概念や指標」は重要なものと考える。

（玉山委員）

・各作業部会はしっかりやっていると思うが、これからが正念場である。足元を固めて、単なる勉強会ではなく、県民所得の向上にいくばくかでも寄与できるようがんばっていただきたい。

（永野委員）

・農商工連携について提言しているが、中央の大資本が来るより、地元の企業がやってくれるのが最もよい。
・農地のまとめ方などに対して、市町村担当者へ動機付けのためのプレゼンを行いたい。
・農作物の中国との価格差は５倍程度だが、安全・安心分で十分に埋められる差だと感じる。さらに農地集約化や大規模化を図ることで差を埋めていく余地があり、喫緊の課題である。

（松本座長）

・県営土地改良事業で整備された土地をいくつか調査したが、収益性から考えるともうひとつ。さらなる情報が必要であり、市町村の協力が必要と考えている。

（元持委員）

・設備投資が十分活用されていないのが現状である。活用していくよい方法がないか考えていきたい。

報告事項③について

（達増委員）

・新しい長期計画は、県の総合計画新議会で議論していただいているほか、パブリックコメントやホームページ地域説明会などいろんなところでご意見を頂いているところである。
・本日は機構にも説明をしたところであるが、特に第５章いわての未来を切り拓く構想についてご意見を頂きたいということである。
・これとは別に、県の部局で積み上げた７つの政策があるわけだが、第５章の構想というのは縦割りを超えてみんなでわっしょいわっしょいやっていこうというのにふさわしいテーマを６つ選んだものである。
・機構にも合うテーマであり、みんなでわっしょいわっしょいやりながら、あれもいいんじゃないかこれもいいんじゃないか、あれもできる、これもできるという、それはいい、じゃあやろう、あるいは、すぐには実現が難しいかもしれないが、目標として掲げておこうといった、自由で柔軟なアプローチをしていこうということであるので、いろいろとご意見をいただきたい。

（永野委員）

・アクションプランには、目標や指標がしっかり明記された画期的内容であり、内容も多岐にわたって記述されており、高く評価できる。
・ただし、ある程度の行程表をもたないと絵に描いた餅になる。行程表に基づいてきちんとやっていくことが必要。
（小向課長）
・11月中旬に公表予定の最終案には行程表をつける予定として考えている。
（藤井委員）
・資料５は10年後を目指した構想である。長期計画には、今何をすべきなのかを書けばいいという議論もあり、将来構想は現実的ではないが、県民に向かって夢を語ることも必要ではないかと考えている。
（元持委員）
・今関心をもっているのは自殺者が多いという点。
・解決する方法がないか考えている。また、解決することで若者に対して明るい未来を提供でき、若者が集まってくる。
（永野委員）
・経済同友会でも自殺者の問題を考えている。
・よくなっていくことを前提として書かれている長期計画にはなじまない議論かもしれないが、行政側にも十分配慮願いたい。
（小向課長）
・自殺者対策については、アクションプランの中に位置づけており、行政としても目をつぶることなく対応して参りたい。
（達増委員）
・各作業部会の進捗状況、産学官連携拠点の形成支援事業を巡っては、これからの先行きに見通しが持てるような報告をいただけたと思うので、いただいたご意見を参考にしながら力強く進めていければと思う。
・新しい長期計画については、いっしょに育む希望郷いわてという基本目標で、３つの視点ということで、ゆたかさ、つながり、ひと、ひとを育む、つながりを育む、ゆたかさを育む、というのはこの機構の視点とも軌を一にしていると思うし、いっしょに育む希望強いわてという目標も機構と軌を一にするものだと思うので、新しい長期計画を進めていくに当たっても、機構の協力をお願いしたい。

参加者　３６名（ラウンドテーブルメンバー含む）